

アポイ岳における山トイレの利用状況

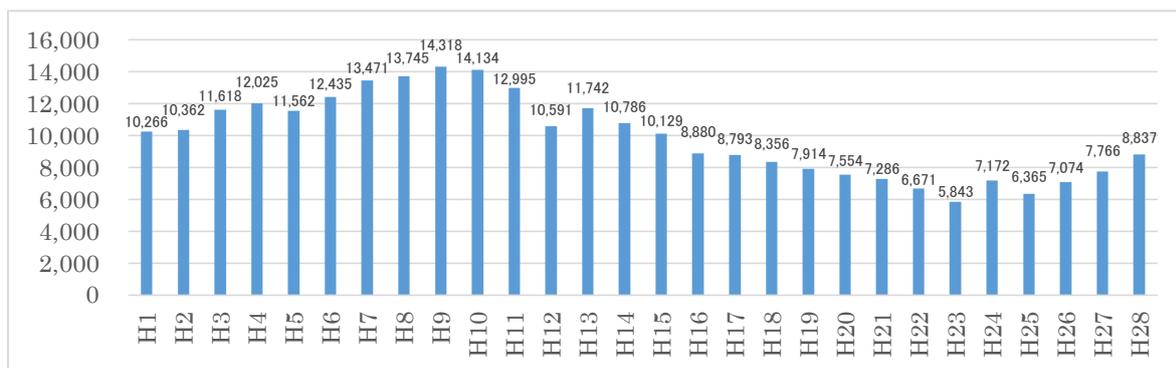
坂下 志朗（アポイ岳ファンクラブ・様似町）

1 はじめに

アポイ岳は、日高山脈の南端部に連なり、標高810mと低標高ながら、特殊な土壌条件や厳しい気象条件などの影響を受け、固有種ヒダカソウをはじめとした約80種以上の多彩な高山植物が生育している。そのアポイ岳高山植物群落は、生態的・文化財的な価値や貴重な自然が認められ、1952年（昭和27年）に国の特別天然記念物に指定されている。また、登山シーズン（特に5月下旬から7月上旬）を迎えると、アポイ岳に咲く可憐な花々を一目見ようと道内外から多くの登山客で賑わう一方で、登山マナーやトイレマナーなどの問題も起きている。

2 アポイ岳の利用状況

下の表はアポイ岳の登山口に設置している入山届名簿を集計した年間登山者数。登山者のピークは平成9年の14,318人をピークに、その後は右肩下がり傾向となり、平成28年度は8,837人の登山者数となっている。月別登山者数を見ると、高山植物のハイシーズン（5月～7月）が年間登山者数の60%弱を占めている。



年度別登山者数（H28年は4月～12月）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
383	2,226	1,741	1,507	1,026	1,186	603	102	63	8,837

平成28年月別登山者数（4月～12月）

3 アポイ岳におけるトイレ問題の経緯

アポイ岳には昭和30年代に浦河林務署が職員用に設置したトイレが5合目山小屋のそばにあったが、老朽化や不衛生な状況であったため、平成4年に撤去している。それ以降、アポイ岳の山中にはトイレがない時期が続き、登山者に不便な思いや時には登山道脇で用便したものが残されたままになっていた。そういった背景もあり、環境悪化が無視できない状況下、町民ボランティア団体「アポイ岳ファンクラブ」が中心となってトイレ問題の

検討が始まった。当初は箱物のトイレ設置やバイオトイレを検討したが、資金や管理上の問題により断念し、最終的に注目したのが携帯トイレ。平成26年からアポイ岳山小屋付近に簡易トイレブースを2基設置し現在に至っている。

トイレの設置場所は、アポイ岳登山口から1時間10分程度登った先の5合目山小屋付近に設置している。

アポイ岳は国立公園の一部で、北海道が管理し許認可の権限をもっており、色々な法的規制の網がかかっている山。

見取り図をご覧のとおり、特別保護地区にかからないように、第3種特別地域の境界にトイレブース2箇所を設置している。



4 簡易トイレブースの管理方法と携帯トイレの回収

5合目山小屋付近に設置した2基のトイレブースの管理は、北海道からアポイ岳ファンクラブに委託された盗掘防止パトロール隊員がパトロール登山のついでに、トイレブースの清掃管理を行なった。

使用済みの携帯トイレは、登山口のビジターセンター横に回収ボックスを設置しており、随時ビジターセンターの職員が回収管理をした。また、登山口のボードには携帯トイレ回収ボックス設置場所などの案内を掲示している。



5 簡易トイレブースの利用状況

簡易トイレブース設置期間は、平成26年から登山シーズンや季節的なことを考慮し、4月上旬から10月末までとしています。平成28年の利用状況は次のとおりになっている。

月	登山者数	予想数	回収個数	回収率	H27 回収率
4月	361	72	2	2.7	4.2
5月	2,226	445	77	17.3	14.4
6月	1,741	348	101	29.0	7.5
7月	1,507	301	22	7.3	8.1
8月	1,026	205	7	3.4	7.4
9月	1,186	237	15	6.3	0.7
10月	603	120	6	5.0	0
計	8,650	1,728	230	13.3	8.4

平成24年のアンケート調査から推測し、登山者の約2割のかたが用を足したという結果から、平成28年の登山者数の2割が用を足したと仮定すると、1,728人となった。そのうち、回収個数は230個で、回収率は13.3%となった。平成27年の回収と比較すると、4.9ポイントと大幅に上昇した結果となった。特に、花のハイシーズン（6月）の回収率が29%となり、携帯トイレを利用されたかたが多かったことがわかる。ただ、アンケートを実施したのが4年前のデータですので、今一度アンケートを実施し、基礎データとなる予想数の精密化を図る必要がある。

また、報告書には下記の問題点が記載されていた。

- ・強風がトイレブース内に吹き込み、ブース内が汚れた。
→簡易トイレの設置場所や、新たなトイレ施設の検討
- ・携帯トイレを使用せず、そのまま排便しティッシュが散乱。
→4年連続の珍事！引き続き、携帯トイレの普及啓発。
- ・指定回収ボックス以外の場所に汚物を捨てていた。
→看板や携帯トイレのパッケージなどに回収場所を明記
- ・携帯トイレではなく、買い物袋に排泄し、回収ボックス内で漏れていた。
→携帯トイレの普及啓発



6 携帯トイレの普及啓発

携帯トイレの販売先について、登山口のビジターセンターをはじめ、登山者が朝早く登られることや、人が多く立ち寄る場所を考慮し、麓の宿泊施設アポイ山荘のフロントに携帯トイレ販売ポップを置き、登山者の目に留まるように販売した。その結果、平成28年度はビジターセンターで155個、アポイ山荘80個を販売した。

また、携帯トイレ普及キャンペーンと称し、毎年登山シーズンに行なっている盗掘防止キャンペーン（アポイ岳保全対策協議会主催）とコラボし、5月14日に登山口付近で登山者に携帯トイレの無料配布や、5月～10月までの間、登山口に山トイレの幟を設置し、山トイレに対する普及啓発を行なった。



7 今後の課題と取り組み

携帯トイレの普及に向けた課題ですが、1つ目は高い認知度の一方で、低い所持率&使用率。数年前と比べ、携帯トイレを所持している登山者は増加傾向にあり、少しずつ意識も変化しつつあるが、これからも継続的に啓発活動を行い、より多くの登山者に認識してもらおう。登山者にとって自分自身の問題だけでなく、もっと大きなスケール（自然環境破

壊)の問題でもあるという認識を持たせるための合理的説明が必要。また、麓の駐車場や登山口などに登山者の目に留まる場所にトイレブースや携帯トイレの案内看板を貼り付けて周知徹底を図ることや、継続的に携帯トイレのキャンペーン活動やアンケート調査を実施し、登山者の山トイレに対する実態を把握する。

2つ目は携帯トイレの販売促進。入手の機会を増やし容易に手にとってもらうため、現在はビジターセンター、観光案内所、アポイ山荘(ホテル)にて販売しておりますが、新たな販路拡大(コンビニなど)として、誰もが気軽に立ち寄る場所に携帯トイレの取扱いや、登山口での自動販売機での可能性を模索する。

3つ目は利用環境整備。今後も簡易トイレブースを継続する予定ですが、現在、アポイ岳ファンクラブメンバーが中心となった盗掘防止パトロール隊員がトイレの維持管理をしていますが、ファンクラブの高齢化も進んでおりますので、長期的なプラン設計や管理体制の明確化を図る必要がある。また、簡易トイレブースの使用マナーについても、衝立看板やブース内に注意事項を貼付け意識づけをする。

今後も、山トイレ問題への取り組みに対し、このネットワークで情報共有を図りながら、美しい自然を守り育てる活動につなげていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。